

水の三島

緑の三島

文化の三島

歴史の三島

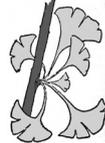
— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま



知っていますか？

市の鳥「カワセミ」市の木「イチョウ」市の花「三島桜」



第 17 号

2011/5/1

- 特集「外来生物」
- お江戸でござる（江戸時代の朝顔ブーム）
- 環境活動紹介（エコリーダーの地域環境活動）

ウワー！ おいも だアー！

— 中郷地区エコリーダー 休耕地で園児と収穫体験 —



「世話をしてくれる人の足音で野菜は育つ」と言われます。
 野菜を育む大地の恵みに感謝し、
 大地と共に大きく育て… と祈ります。

三島で見られる外来生物

クイズ：外来生物被害予防3原則とは何でしょうか？ 答えはP3へ…



人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを「外来種」といいます。近年は人や物の移動が激しくなり、人間がペットや食料などの目的をもって輸入したり、あるいは意図せずに入ってきてしまった外来種が急速に増えています。

それらの外来種が野生化して繁殖し、もともとそこに存在していた生物の居場所を奪うなど、深刻な問題を引き起こしていることから、国は平成17年に外来生物法を施行しました。問題を引き起こす海外起源の外来生物を特定外来生物と指定し、飼養、輸入などについて必要な規制をしたり、野外などに存在する特定外来生物を防除することと定めています。（要注意外来生物は、外来生物法の規制対象ではありませんが、生態系に悪影響を及ぼしうることから、適切な取り扱いが求められるものです。）

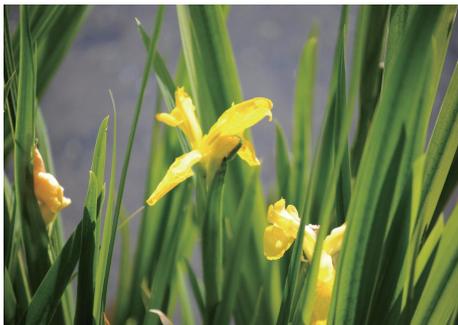
キシノウブ

源兵衛川に咲く美しい花にキシノウブがあります。三島の水辺の景観として親しまれ、宮さんの川（蓮沼川）、境川・清住緑地などでも見ることができます。

ヨーロッパ～西アジア原産のキシノウブは今から25年程前に観賞用として日本に導入されましたが、現在は全国的に見られます。

キシノウブは水質浄化の効用もあり、ビオトープ創出などのために利用されることが多いですが、近縁種にカキツバタなどの絶滅危惧種が含まれ遺伝的かく乱を起こす可能性や、繁殖力が強いので在来種を駆逐するおそれがあることから、要注意外来生物に指定されています。

市内の河川では、数年前から抜き取りなどの防除作業がボランティア団体によって定期的に行われています。



▲境川・清住緑地に咲くキシノウブ

ホテイアオイ

熱帯アメリカ原産で、明治中期に観賞用として輸入されました。金魚鉢に入れる浮き草として有名ですが、暖地の池、水路などで野生化しています。

根元からツルを出し、次々に新株を作るなど繁殖力が旺盛なことから、異常繁殖が問題となっています。繁茂しすぎると、水面を覆い尽くし、水中に届く光を遮るため、在来の水生生物の存在を脅かすことから、要注意外来生物に指定されています。

三島市内でも平成20年の夏に中郷温水池で大繁殖したため、多くの団体により除去作業が行われました。作業は13日間行われ、延べ390人が作業に従事し、総重量にして約144トンのホテイアオイが回収されました。この作業などにより、その後ホテイアオイの繁殖は見られなくなりました。



▲平成20年夏に中郷温水池でホテイアオイが異常繁殖

アレチウリ

特定外来生物アレチウリは近年日本に入ってきた外来種で、生育速度が速く、巻きひげで他のものに巻き付く上、大量の種子を作り、群生することから、全国の河原や林縁で増え続け、在来植物を覆ってしまい、農業被害を生じて問題になっています。

アレチウリは、1株当たり5,000個から20,000個の種をつけて川の水で散布されます。花期は7、8月で9月から11月に結実することから、6月中には駆除する必要があります。除草剤による方法もありますが、他の植物に影響を与える可能性があることから、結実前の刈り取りが効果的といえます。

昨年は山田川沿いにアレチウリが繁茂したため、ボランティア団体による刈り取り作業が行われました。



▲山田川沿いに繁茂し駆除される前のアレチウリ
(写真提供：三島フォレストクラブ)

アメリカザリガニ

源兵衛川にはダビドサナエ、オニヤンマ、オニヤンマなどのトンボの幼虫（ヤゴ）が生息しています。源兵衛川の下流で、水のよどんでいるところには、その幼虫をエサとしているアメリカザリガニが多くいます。

アメリカザリガニは食用ガエル（ウシガエル）のエサとしてアメリカから移入されたもので、ウシガエルをあまり食用としなくなった後も日本で繁殖を続けており、要注外来生物に指定されています。

川全体に有機物が増えたり、川の水量が減るとアメリカザリガニが増えることになるので、川の環境を守ることが大切です。



▲アメリカザリガニ

ミドリガメ

夏祭りの縁日でよく見掛ける小さな緑色のカメ（ミシシippアカミミガメなど）は、アメリカ原産のヌマガメ科の子ガメ類で愛玩用として輸入されました。

このカメは、植物食傾向の強い雑食性で時が経つにつれ大型化し、手に余り遺棄してしまうケースがあるようです。

緩やかな流水域や止水域を好み、三嶋大社の池でも見ることができます。環境への影響として、平成17年に千葉県で小児がミドリガメを原因とする重度のサルモネラ症に感染したことや、佐賀城の外堀のハス食害の「主犯」とされたことがあります。



▲ミドリガメ 三嶋大社で見られます

現在、要注外来生物に指定されていますが、大量に飼育されているため、規制をすることにより代替となるカメ類の輸入が増大する可能性や、本種が大量に遺棄される可能性が考えられます。

愛玩用として輸入されましたが、遺棄されるリスクや飼育に関するマナーの向上が特に必要とされる、私達の最も身近にいる外来生物といっても過言ではないカメといえます。

自然界はあらゆる動物と植物が多様な関わりを持ち、生態系という非常に複雑なバランスを保っています。このバランスを壊さずに順応する外来種もありますが、害がないように見えて実は様々な影響を及ぼしていることも少なくありません。

畑を荒らしたり、毒を持っている生物ならば人間にも直接被害が出るでしょう。

外来生物はむやみに日本へ入れないことがまず重要です。

すでに飼っている種がいる場合は絶対に捨てたりせず、もし繁殖している種がある場合は少なくともそれ以上拡げないように気をつけましょう。 ※下線がクイズの回答です。



拓江戸でござる ～ 江戸時代の朝顔ブーム ～

朝顔の原産地は熱帯アジアですが、日本へは、奈良時代末期に「牽牛子（けごし）」という名で中国から薬草として渡来しました。本格的に観賞用に栽培されるようになったのは、江戸時代に入ってからで、加賀千代女の有名な句「朝顔につるべ取られてもらい水」はちょうど江戸時代中期に詠まれたものです。

朝顔はもともと青色ですが、花の色に変化が出やすく栽培も手軽なことから、園芸用として江戸時代末期には人気を得て、文化・文政期（1804～30年）と嘉永・安政期（1848～60年）の2回大ブームとなりました。珍花貴種が競われ、非常に高値で取り引きがなされたそうです。

朝顔というと、夏の風物詩として、朝顔市が思いだされます。特に有名な入谷の朝顔市が毎年七夕の時期に開催されるのは、朝顔の別名「牽牛花（けんぎゅうか）」にちなんでのことです。



「地域の環境は地域で守り育てる」 エコリーダーの地域環境活動

中郷の史跡巡り

〈中郷地区エコリーダー活動の紹介〉 －中郷地域の「いいところ」づくり－

郷土の大切な史跡や文化財を守るため、ごみ拾いをしながら、史跡巡りを行いました。(2008年～9回実施、延べ253名参加)
(参加者の声)
「ふるさとの町名の由来や史跡を知ることが出来てうれしい。」
「参加できる事が喜び、100歳まで生きたい!」(89歳女性)
「小泉先生のお話が、解かり易い。」
「一人では歩けない…友達と歩けるから楽しい。」



向山古墳にて2011年1月

休耕地の活用

休耕地を活用し、花や野菜を栽培しました。
ジャガイモやサツマイモの栽培には園児も参加し、採れたての野菜のおいしさを実感していただきました。



ジャガイモの収穫2010年6月



麦の脱穀2010年6月



中プラまつり出店2010年11月

パサディナ地区ごみ拾いウォーク



ごみ拾いウォーク

ごみ拾い、されど…

2007年8月から12回実施、延べ264人の方に参加頂きました。
路傍に捨てられるごみは減りましたが、依然として捨てられています。しかし、それは数日後無くなります。拾ってくださる方もいらっしゃるのです。癌の治療を続けながらごみ拾いに参加してくださる方がいます。「無理をしないでください。」「皆さんに会える事、声をかけたり、かけてもらったりするのがうれしいので…」
ごみ拾いを通じて人の輪(和)も広がれば…と願いつつ、これからも続けていきたいと思っています。

皆さんも地域での環境活動に参加しませんか。お問い合わせは下記、環境政策課へ。

【編集後記】



ごみの減量はエコ生活には欠かせない問題ですが、捨てにくいモノって沢山ありますよね。化粧品の外側ってどうにかならないでしょうか。ファンデーションのコンパクトとか、口紅の容器とか。全てのメーカーを共通にして、使い終わったら中身だけ取り換えられるようにしてくれば良いのに!って思ってるの、私だけじゃないですよ。メーカーさん、容器も含めて地球にやさしい化粧品作ってください〜い。(さ)

編集スタッフ (市民ボランティア)

飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・佐伯忠夫・紫原俊介・鈴木祥子
堀江紗代・渡邊芳昭

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>(広報みしまと一緒に掲載中)

第17号 (5月・10月の年2回発行)

平成23年5月1日発行
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5
三島市役所中央町別館
環境政策課内
「エコライフみしま」編集事務局
TEL : 055-983-2647
FAX : 055-976-8728
E-mail:kankyou@city.mishima.shizuoka.jp

エコライフみしまは再生紙を使用しています。
この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。